

令和3年度 学校関係者評価

評価基準 当てはまる:3 やや当てはまる:2 当てはまらない:1

I 教育理念・教育目的

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・教育目的は、養成する理学療法士、作業療法士が卒業時点においてもつべき資質を明示している	3.0	教育理念・教育目的は卒業時にもつべき資質を明示している。学生便覧に記されており、各学科の3つのポリシーにより明確に示されている。教育理念・教育目的は学生便覧に示されており、各種オリエンテーション時に伝えるようにしている。学生便覧の使用機会を増やし、具体的に理解できるような説明に努めているので学習の指針になっていると思われるが、学生の認識、利用としては十分とはいえない。教育理念・教育目的は本学院の教育上の特色を明示している。学生便覧の他、パンフレット等の配付物やホームページに載せ、各種説明会で説明している。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている	2.6			
3	本学院の教育上の特色を明示している	3.0			

II 教育目標

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している	3.0	教育目標は学生便覧に明示され、実践者および学習者の両側面から設定されている。教育目標に沿ってカリキュラムを編成しており、教育内容を概ね網羅している。具体的な表現はされているが、一部実現可能性の判断が難しいものもある。教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	教育目標は、設定した教育内容を網羅している	3.0			
3	教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている	2.8			
4	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある	3.0			

III 教育経営

III-1 教育課程編成者の活動

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価との関連性を明確に理解している	2.3	教育課程と授業実践、教育の評価との関連性については、科内での討議や委員会での検討を通して理解に努めているが、教員の理解度には差があり、全体が明確に理解するまでには至っていない。教育理念・教育目標の達成に向けて、具体的な目標を設定し活動を行っている。ミーティングを通して一貫した活動を行えるように努力しているが、教員間で十分な共通認識が得られているとは言えない。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	教育課程編成者(教育主事以上の管理者)と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている	2.5			

III-2 教育課程編成の考え方とその具体的な構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	理学療法、作業療法学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している	2.8	明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成しているが、各教員が十分に理解しているとは言えず、編成内容について検討の余地がある。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし

III-3 科目、単元構成

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している	2.8	明確な考え方と根拠をもって科目を構成しているが、教員の共通認識としては十分とは言えない。明確な考え方と根拠をもって単元を構成するよう努めているが、科目によって改善の余地がある。科目と単元が教育理念・目的、教育目標と整合性を持つよう改善に取り組んでいるが、不十分な科目もある。構成した科目は概ね妥当と思われるが、社会情勢の変化に応じた対応は必要である。構成した科目は本学院の特徴を概ね表している。国立病院機構職員による講義や政策医療に関する単元、早期からの臨床見学など国立病院機構の特色を生かした授業がある。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している	2.5			
3	科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある	2.6			
4	構成した科目は理学療法士、作業療法士を養成するのに妥当である	3.0			
5	構成した科目は本学院の特徴を表している	2.9			

III-4 教育計画

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位履修の方法とその制約が教員・学生の双方がわかるように明示され、その方法が学生の単位修得の支援となっている	2.8	単位履修の方法とその制約については学生便覧等に表示されており、オリエンテーション時に説明する等周知に努めている。シラバスに学習方法及び配点を詳細に明記しており学生支援に繋がっているが、分かりやすさ、順序性など工夫が必要である。学修の質を維持できるように科目を配列しているが新カリキュラム移行期に入り関連性、順位性、履修する学年等の調整が必要である。学外の関連分野関係者と連携し、カリキュラムの検討は行っているが、具体的な見直し等は一部に留まっている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	理学療法士・作業療法士になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている	2.6			
3	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われている	2.8			

III-5 教育課程評価の体系

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	単位認定の基準は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	3.0	学則により単位認定の基準は明確であり、必要な学習を認めるものとして妥当と思われる。単位認定は基準に基づき、期末試験、レポート、特別試験等で評価され、議論が必要な場合は学科内で十分におこない運営会議で承認されている。しかし、科目、講師によって単位認定基準の難易度に差があるなど検討を要する場面がある。他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えており、単位認定が行われている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	単位認定の方法は理学療法士、作業療法士に必要な学習を認めるものとして妥当である	2.8			
3	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている	3.0			

III-6 教員の教育・研究活動の充実

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している	2.1	教員が専門性を発揮できるように、担当科目と時間数の配分を調整している。教員人事において専門性が担保されない場合もあり、必ずしも専門性が十分に発揮されているとは言えない。授業や学生対応の他に、学院の管理・運営に関する業務量が多く、授業準備が後回しになっており体制の整備が必要である。自己研鑽のシステムはあるが個人に任せられており、十分に機能しているとは言えない。研修授業や教授方法の検討など相互研鑽の機会を設けているが、頻度は少なくシステムとして十分に機能しているとは言えない。	PT学科 ・教員の授業準備時間の確保については本年度は業務量の効率化でのいくつかの取り組みによって多少の改善が見られたが継続課題である。また、自己研鑽システムについては改善策はとっておらず課題である。 OT学科 ・学事予定および教育計画に従い計画的な業務遂行を図る。研修会や学会参加後の伝達講習を実施し、相互研鑽に務める。	・異動職種であることが、内部評価が伸び悩んでいる要因の一つと考えられる。新しい教員が赴任しても一定の質が担保されている。臨床の立場からは、実習指導者が、施設教育理念・目的・目標を理解してもらう機会のつくるようにしているが、個人差は否めない。また教員の働き方改革が進み、離職防止が図られることを期待する。 ・III-6の2(教員の授業準備)における授業準備評価が改善している。引き続き授業準備の時間を効率よく確保してほしい。 ・III-6の3(自己研鑽システム)における自己研鑽については年度初めに計画し組織の中で確認してはと考える。
2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている	1.8			
3	教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている	2.1			
4	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている	2.2			

III-7 学生の理学療法、作業療法実践体験の保障

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	臨床実習施設は、本学院の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解しているか	2.3	実習の手引きを作成し、実習指導者説明会や実習地訪問の際に説明し周知に努めているが、今年は新型コロナウイルス感染症により実習指導者説明会をオンラインで実施した。本学院の特徴はおおむね理解されていると思われるが、実習施設・実習指導者により差があり十分とは言えない。臨床実習施設は、学生の学習を支援する体制を整えているが施設間、指導者間での差があるのも事実であり、さらに協力体制が必要である。臨床実習指導者の役割は、実習の手引きに明記し、臨床実習指導者説明会にて説明している。学生の状況に応じて電話連絡を取り合い、適切な時期に実習地訪問を行う等の協働体制を整えており情報交換・情報共有に努めている。今年は新型コロナウイルス感染症により昨年同様に訪問を控えた電話での情報交換に変更した。臨床実習に向けてのオリエンテーションや個人情報保護法の説明を行うとともに、実習の手引きに明示して伝達している。臨床実習において学生が関係する事故等があった場合、ヒヤリハット報告書の作成及び実習指導者からの情報収集等により、状況を把握し、原因分析を行い対策を講じるとともに、学生にも周知している。リスク管理・感染管理に関する講義を実施しており、臨床実習に関しては、実習の手引きに明示し、オリエンテーション時に説明するなど、計画的に指導している。	特記事項なし	・学院からの実習地に対する要望があれば伝えてほしい。
2	臨床実習施設は学生の理学療法、作業療法実践の学習を支援する体制を整えているか	2.8			
3	臨床実習指導における学生の学びを保障するために、臨床実習指導者の役割を明確にしているか	2.9			
4	臨床実習指導者と教員の協働体制を整えているか	2.5			
5	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示しているか	2.9			
6	臨床実習において学生が関係する事故を把握、分析しているか	2.9			
7	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っているか	3.0	・新カリキュラムでの指導に移行しており実習指導者、施設、学院共に指導方法を模索している状況であるため、指導要領を踏まえて学院の実習に対する方針を継続して周知していく必要がある。		

IV 教授・学習方法

IV-1 授業内容のまとまりの考え方

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	2.8	授業内容は各学科内で検討し学生に合せて設定している。具体的な内容は担当教員によるため相互チェック、共有の面では十分とは言えない。学科内あるいは担当教員間で授業内容について検討しており妥当性を持つよう努めているが、相互チェック、共有の面では十分とは言えない。学科内で検討を続け改善を図っているが、未だ明確になっていない部分があり、引き続き検討が必要である。	PT学科 ・実習前後の学生能力評価の継続 ・治療技術の評価を追加(教育課程編成委員会報告)	・自己評価について特に問題なし
2	授業内容のまとまりは、理学療法、作業療法学の教育内容として妥当性がある。	2.7			
3	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている	2.2			

IV-2 授業の展開過程

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	授業形態(講義、演習、実習)は、授業内容に応じて選択している。	2.7	授業形態の選択は各教員に任されており、授業内容に応じた選択に努めている。教員間で検討する場合もあり概ね適切と思われる。各学年における支援の他、学年間での取り組みも実施するなど、学生の状況に応じた学習支援に努めている。個別対応は担当教員に任せられており、シフト勤務の活用など教員の負担軽減にも配慮が必要である。PT学科では、今年よりチューター制を導入し、1年生において担任以外が5名程度で関わり生活指導等に活かしている。ミーティングや教員間で情報共有し、協力して教育・指導に努めているが、明確な協力体制には至っていない。	PT学科 ・1年生に対するチューター制の導入(学校関係者評価委員会報告) ・実習前後の学生能力評価の継続(教育課程編成委員会報告) ・新カリキュラムに対する評価技術習得のための教授法方法の検討(教育課程編成委員会報告) OT学科 ・演習における授業展開や評価方法の検討、およびその効果検討の継続(教育課程編成委員会報告) ・臨床実習前後における学生能力評価および評価結果への対応の検討(教育課程編成委員会報告)	・PT学科のチューター制は良い取り組みである。各学年で持つ意味合いが異なるため、他学年への検討を含めて継続してほしい。
2	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している	2.7			
3	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている	2.5			

IV-3 目標達成の評価とフィードバック

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	評価計画が立案・実施され、評価結果に基づいて、実際に授業を改善している	2.6	前期・後期に学生による授業評価、学科内での検討を通して改善に努めているが、共通のツールがなく教員に任せられている面があり十分とは言えない。多面的な評価に努めているが、実際の評価方法、教員間での共有については検討が必要である。評価基準と方法は学生便覧、シラバスに明示され、公平性を保つよう努めている。	PT学科 ・実習前後の学生能力評価の継続 ・治療技術の評価を追加(教育課程編成委員会報告) OT学科 ・臨床実習前後における学生能力評価および、評価結果への対応の検討(教育課程編成委員会報告)	・内部評価をみる限り、教員間の情報共有・コミュニケーション不足が挙げられており、評価も相対的に低い印象を受ける。今後も意識して情報共有・コミュニケーションの場を設けてほしい。
2	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている	2.4			
3	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表し、単位認定の評価には公平性が保たれている	2.9			

IV-4 学習への動機づけと支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	シラバスの提示は、本学院全体としての一貫性があり、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2.6	シラバスは一貫性があり、授業初回など適宜、授業目標を確認され、学生支援の動機づけに繋がっている。活用度、整合性については継続して検討が必要である。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし

V 経営・管理過程と財政

V-1 設置者の意思

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の管理者(主事以上)は教育理念・教育目的についての考え方を明示している	3.0	学生便覧等に明示されており、業績評価の病院目標及び学院目標にも反映されている。経営、運営については機構本部の考え方を中期計画に示されている。適宜情報伝達や情報共有が行われており、必要に応じて説明し理解に努めているが、十分とは言えない。	・機構本部の考え方が教員に周知できるように管理者が努めていく。	・自己評価について特に問題なし
2	本学院の管理者(主事以上)は教育課程経営についての考え方を明示している	2.8			
3	本学院の管理者(主事以上)は本学院の管理運営等についての考え方を明示している	2.8			
4	教職員は本学院の設置者(機構)と管理者(主事以上)の考え方を理解している	2.6			

V-2 組織体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている	2.7	組織体制は明確になっているが、教員の役割機能においては十分とは言えない。意思決定システムとして学科内会議、教員会議、学院運営会議が設けられており、意見を述べられる環境は作られているが十分に活用までは至っていない。教職員の資質向上に向けてFD活動を実施しているが、教育理念・教育目的達成との整合性は十分とは言えない。	・機構本部、病院の考え方が教員に周知できるように管理者が努めていく。	・自己評価について特に問題なし
2	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている	2.8			
3	教職員の資質の向上にむけての施策には教育理念・教育目的達成の整合性がある	2.8			

V-3 財政基盤

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である	2.4	財政基盤の確保に関する考え方は明確であり、幹部会議、管理会議、診療会議の報告及び決算報告や各種資料により理解に努めているが、共通の認識には至っていない。教職員は運営会議で意見を出すことができるが、各教職員が財政的視点で意見が出る環境には至っていない。	・特に学院単体の損益計算書をもとに特に学院単体の収支について周知を図るように努めていく令和3年度はファイリングのみ実施。	・自己評価について特に問題なし
2	教職員は、本学院がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している	2.3			
3	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている	2.2			

V-4 施設設備の整備

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学習・教育環境の整備について、管理者(主事以上)の考え方を明示している	2.8	施設整備に関しては、必要に応じて適宜、更新されているが、年計画として整備案を作成するには至っていない。改修は機構本部の承諾が必要であり計画的に整備案を上げるシステムにはなっていない。空調システムは令和4年度に改修予定。和式トイレは同窓会の寄付により一部様式に改修できたが、ハード面の整備は難しい状況である。東名古屋病院の防災マニュアルを置き、消防点検を実施し、防災訓練にも参加している令和3年度にリハ学院独自のマニュアルを整備し、次年度に寮生等を念頭に防災訓練を実施予定としている。	・施設整備の年間計画書の作成 ・学生寮等の防災訓練の実施	・厳しい経営状況、置かれている現状を主事・教職員が共有し、意見交換ができる環境が構築されることを期待する。 ・財政面や施設整備に関しては現場の努力が足りないことも多々あるかと思うが、現場の認識は一つにして学生の教育や生活環境を支援して頂きたい。
2	管理者(主事以上)の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している	2.3			
3	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している	2.3			
4	防災に対する体制を整備している	2.3			

V-5 学生生活の支援

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている	2.9	学生生活の支援として、定期健康診断、学生相談会、寮生活の支援、奨学金利用の手続き、専門実践教育訓練給付金利用の手続き等、支援体制の整備に努めているが施設整備等、ハード面の整備については組織上難しい。現在実施している支援は活用されており、学習の継続に繋がっている。	PT学科 ・学生便覧、シラバスの充実 ・適宜オリエンテーションの実施 ・チューター制の継続	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし
2	支援体制は、実際に学生に活用され、学習の継続を助けている	2.8			

V-6 本学院に関する情報提供

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている	2.9	入学時の説明の他、学事や経費に関する文書の送付、教科書の購入や振込方法等に関する連絡、成績不良者への個別連絡など、適宜情報提供を行っている。定期的な情報提供と個別連絡により、理解を得やすい関係が作られ、協力・支援に繋がっている。ホームページ、パンフレットの配布、学院説明会、進学ガイダンス、病院ニュース、年報、高校訪問、研究発表等、活用できる資源を用いて広報活動を行っているが、さらに動画の活用などの工夫が必要である。今年はコロナウイルスにより高校訪問は中止し学院説明会は規模の縮小とともにWebの配信をおこなった。	OT学科 ・学院や作業療法に関する情報を提供する	・自己評価および課題・解決方法について特に問題なし
2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている	2.8			
3	理学療法士、作業療法士を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている	2.3			

V-7 本学院の運営計画と将来構想

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	本学院は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している	2.3	・現在、運営方針を年単位で作成し、東海北陸グループ、機構本部に提出し指導を受けている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし

V-8 自己点検・自己評価体制

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している	2.8	自己点検・自己評価の意味・目的に対する理解が進み、評価・点検に必要な資料も整備されたが運用面では十分とは言えない。評価結果は学校関係者評価委員会で報告し改善を図るシステムとしている。評価結果についてミーティングを行い、次年度の改善へ向けた目標を作成し一定の機能は担保されているが、課題が限局されておりカリキュラム運営や授業実践へのフィードバックとして広く機能しているとは言えない。	・管理者が年度初めに自己点検の結果および学校関係者委員会を受けてのまとめを整理し提示していくように努める。	・自己評価について特に問題なし
2	自己点検・自己評価体制を整え、運用している	2.9			
3	自己点検・自己評価は、本学院のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している	2.4			

V-9 法令等の遵守

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	3.0	自己点検表の活用を含め、法令、基準を遵守し、適正な運営がなされている。個人情報保護方針を明示し対策をとっている。教員が研修を受け、学生にもオリエンテーション等で周知を図っている。	特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	3.0			

VI 入学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教育理念・目的との一貫性から入学者選抜についての考え方が述べられている	2.8	入学者選抜には、教育理念・目的との一貫性から、アドミッションポリシーを明示している。入学者状況や入学者の推移について分析・検証しているが、入学者選抜方法の妥当性や教育効果の視点は不足しており、検討が必要である。	特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ・分析・検証の結果が実を結ぶことを期待する。 ・目的意識を持ち、卒業後も患者様のために努力できる人材としての学生選抜をして頂けるよう、分析を深めて頂きたい。 ・在校生、卒業生の声が届くようにホームページで発信してはどうか。 ・入学動機としてご家族の入院が転機となっている学生もいるため、機構病院等にパンフレットを置いてはどうか。 ・動画配信の視聴回数等も参考にしてはどうか。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証されている	2.5			

VII 卒業・就職・進学

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている	2.5	期末試験と臨床実習Ⅲの結果から総合的に判断している。臨床実習前後の評価に取り組んでいるが卒業試験等は実施しておらず、到達状況の捉え方にはさらに検討が必要である。国家試験の合格率、実習での評価等の包括的な把握に留まっており、実習前後の評価や卒業前評価など明確な指標の検討、実施し分析することが必要である。就職、進学状況は把握しているが、十分な分析には至っていない。国立病院機構への就職率等は、目標との整合性を認めるが、卒業時の到達状況や他機関への就職状況の分析は不十分である。同窓会の運営に教員が参加し研修会等を実施しているが、学院主催の卒後教育を含めて組織的な体制に向けて連携、検討が必要である。	・学院としての卒業生との関わり方について、継続して検討と要する。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒後教育にも取り組んでおり、新卒者の拠り所、離職防止の一助となっている。 ・理学療法、作業療法実践者の育成が仕事であるわけで、製造元責任者の立場であるのですから1年ぐらいは気にかけてあげてほしいです。 ・リハビリテーション科だけではなく、最近の新採用者はメンタルの問題で退職されるケースが増えているような気がする。理想かもしれないが、そのような際に、母校が頼れる存在であってほしい。・卒業判定指標や卒業生の動向を踏まえ、より一層分析を深められると良い。
2	卒業時の到達状況を分析している	2.3			
3	卒業生の就職・進学状況を分析している	2.3			
4	卒業生の到達状況、就職・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある	2.3			
5	卒業生への支援体制がある	2.6			

VIII 地域社会／国際交流

VIII-1 地域社会との連携

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している	1.6	学院祭や公開講座を通して地域との交流を図り、授業では老人保健施設でレクリエーション、学生有志のボランティア活動等を行っているが、組織的な貢献とまでには至っていない。今年は昨年同様に新型コロナウイルス感染症により実施できていない。学院祭・公開講座を通して地域へ情報を発信しているが、さらに充実が必要である。今年には新型コロナウイルス感染症によりPT学科での公開講座を病院ホームページに動画掲載するに留まっている。学習・教育活動の中に、老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、介護用品ショップ、福祉工場、作業所などの見学や、老人保健施設でのレクリエーションなどを取り入れているが、今年には新型コロナウイルス感染症により実施できていない。 地域との関りは、学校関係者評価委員会でも課題の一つであり、学院としての地域の考え方を整理する必要がある。	PT学科 ・地域の捉え方、関わり方を教員間で整理する必要がある。 OT ・学院や作業療法に関する情報を提供する。	・新型コロナウイルス感染症への対応、新カリキュラムへの移行など、国立病院機構附属の学院を取り巻く環境はますます厳しくなっている。教育に携わっている教職員の皆様には頭が下がる。さらに個々の教員への負担が増しているのではと懸念している。現場の意見を経営に反映させることは難しいとは思いますが、今後も健全でより良い教育が提供されて行くことを願う。 ・全体として教育の取り組みは高く、上記に特記した内容に課題を認める。 ・年度ごとに重点的に対処する点を絞って対応してみてもと考える。 ・内部評価での点数の低い項目、教員の授業準備(Ⅲ-6)、研究活動(Ⅸ)についてはマンパワー不足が原因と思われる。教員の事務作業のかかる業務の負担を減らすために事務職員の採用若しくは教員の増員を検討してはどうかと考える。地域社会との連携についても点数が低い点が気になるがコロナ禍で難しい環境なので他の養成校はどのような対応をとっているのか調査して対応を検討してみてもどうか。 ・しっかりとした教育目標、学習内容を吟味され学生に分かりやすく伝える努力がされている様子が十分に評価できると思う。自助努力では困難な問題を除けば、学生教育、学院運営は適正になされている。一方、自助努力困難とは言え財政状況等への職員全体の認識を一つにし、将来的な環境整備に努めたり、教員相互を高め合ったり、地域や国際交流、卒業生の分析や研究活動など改善すべき部分はおありの様ですので忙しいが、是非より高みを
2	理学療法、作業療法教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている	1.6			
3	本学院から地域社会へ情報を発信する手段をもっている	1.8			
4	地域内における諸資源を本学院の学習・教育活動に取り入れている	1.8			

VIII-2 国際交流

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している	2.3	災害活動の講義や海外派遣経験者による講義を取り入れているが、授業科目の設定には至っておらず、検討が必要である。英文雑誌、インターネット環境などの整備はあるが、国際的視野を広げるための有効な活用には至っていない。	・特記事項なし	・自己評価について特に問題なし
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている	2.0			

IX 研究

点検内容		自己評価	項目総括	特記事項(課題と解決方法)	学校関係者評価
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している	1.6	日常業務が多く研究活動が行える環境にはない。学院内での予演会や研究授業を通して助言・検討の場があるが、研究活動を継続的に助言・検討する体制は整備されていない。教育や管理・運営業務に重点が置かれ、研究の優先度は低く年間計画で総合医学会などで毎年発表しているが、文化的素地があるとは言いがたい。	・業務の効率化を進め継続して研究の土壌を整備していく	・個々の教員の努力だけで研究環境を充実させることは難しく、本格的な見直しが必要。 ・研究活動については発表だけでなく、テーマや研究疑問などの探索、総説をまとめることをグループで検討する等試してみてもどうか。 ・日常業務が煩雑で相当困難かとは思いますが、卒業生のみならず現場の療法士などへの情報発信や研究サポートなどの支援ができるとうい。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている	2.3			
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が本学院にある	1.8			